

実践④ 出水市立出水商業高等学校

1 はじめに

本校は、世界有数の鶴の渡来地として有名な出水に、昭和23年、鹿児島県米ノ津町立米ノ津高等専修学院として開校した。昭和29年の出水市・米ノ津町合併と同時に出水市立出水商業高等学校と校名を変更し、今年、創立76周年を迎えた。長い歴史と伝統の中で着実に実績を築き、現在、各学年とも商業科2クラス、情報処理科2クラスの計12クラスで、全校生徒417人が「自主創造・敬愛和協・誠実勤勉」の校訓のもと、社会で活躍できる産業人となることを目標に、勉学や部活動、資格取得等に励んでいる。



2 図書館と図書委員会

本校図書館は、教室からも近い生徒棟の1階に位置し、休み時間や放課後に気軽に利用できる場所にある。そこで図書委員を中心に、廊下や入口にお薦めの本の掲示や季節の飾り付けなどを行い、生徒を図書館へ誘っている。図書の蔵書数は約1万4千冊と少ないが、生徒・教職員の不断の読書活動の礎となるべく整備を行っている。生徒一人当たりの貸出冊数は、令和3年度は9.2冊である。令和4年度の12月現在は、8.2冊である。

図書委員は各クラス2名ずつの12名と生徒会所属の委員長1名を加えた計25名で構成され、毎日、清掃時間に図書館に集まり、総務・広報・整本の3班に分かれ活動している。「年間1人30冊以上借りる」という目標のもと、校内の読書活動を推進している。活動内容は年間を通して、図書委員会だよりの発行や管内の小中学校への出前授業、個性的な図書館のレイアウト、学級での読み聞かせや校内放送による「わくわく図書ラジオ」のDJ、ポスター・POP作製などの広報活動、文化祭での朗読劇やペープサートの舞台発表、市立図書館のYAクラブなどのボランティア活動、未返却本の対応・回収など多岐に渡っている。本校の充実した読書活動は、図書委員の地道な努力の賜物である。



3 特色ある取組

(1) 伝統の朝の読書活動

本校の朝読書は1988年から部分的に開始し、2002年から22年間、午前8時35分から45分までの10分間（全校朝礼、文字力テスト実施日を除く）ほぼ毎朝、生徒と担当教員とともに本を読んでいる。令和元年度には、長年の取組が評価され、県内の高校で初めて高橋松之助記念「朝の読書大賞」を受賞した。普段は、朝の読書の4原則「みんなでやる」「毎日やる」「好きな本でよい」「ただ読むだけ」に沿って実施しているが、「いじめを考える週間」（5月）には、図書委員によるいじめに関する絵本の読み聞かせや、教職員も参加しての詩の朗読を行い、読書を通して生徒自身に様々なことを想起させる場として充実した活動になるように努めている。



(2) 図書委員大活躍の校内読書週間（6・11月実施）

本校では、6月と11月のある1週間を読書週間として、読書の啓発に努めている。主な活動としては、朝の読書活動の時間に図書委員による読み聞かせや一斉読書などを行っている。コロナ禍の影響で自粛していた外部ボランティア団体による読み聞かせを、今年度は5年ぶりに復活させ、全学級で行った。実際に対面による読み聞かせで、生徒も童心に返り聞き入る姿が多く見られた。また、11月の読書週間では、3日間、昼休みに本好きな図書委員による「BOOK TALK～わたしの推し本～」と題したイベントを実施し、連日多くの生徒・職員が訪れ好評を得た。イベントの内容は図書委員と司書がアイデアを出し合い、毎年新しい活動に挑戦している。

(3) 楽しく読書！ 小学校での読み聞かせ出前授業

年に2・3回、管内の小学校に読み聞かせ出前授業と呼ばれる活動を開催している。内容は絵本の読み聞かせに加え、折り紙や季節の歌、指遊びなど年齢に応じた内容を設定し、小学生にとっても楽しく充実した時間となっている。参加メンバーは図書委員の有志・約10人で、読み聞かせや折り紙の説明などが分かりやすく伝わるように言い方やアクセントなどを工夫し、昼休みや放課後に練習を重ね本番に臨んでいる。委員の生徒たちは定期考査や検定などが同じ時期に重なると時間の確保に大変な面もあるが、活動を通して様々なことを考え経験する貴重な成長の場となっている。



(4) 悲願の全国へ 高校生ビブリオバトル大会

平成28年からほぼ毎年鹿児島県高校生ビブリオバトル大会に出場している。令和4年度は、7年目にして本校の3年生松下未来さん（当時2年生）が鹿児島県代表となり、大阪の立命館大学で行われた全国大会へ出場した。令和5年度も3名の生徒が参加し、2人が本選出場を果たしたが、全国大会には及ばなかった。また、校内においても、文化祭で図書委員がバトラーとなり全校生徒でビブリオバトル大会を行い、国語科の授業では、学級ごとにビブリオバトルを行うなど、本を読んでいるからこそ実施できる取組を進めている。



4 今後の課題

若者の活字離れが叫ばれて久しいが、本校においても貸出冊数が増えないのが現状である。スマートフォンやゲームなどの電子機器を長時間使用している生徒が多く、幼少期から培ってきた読書習慣が失われつつある。このような現状を改善するため、積極的な図書館の活用、全校体制の読書指導、教職員への授業支援、ICTを活用した媒体（電子書籍・オーディオブックの活用）の導入、問題解決学習の資料の整備、生徒に合わせた選書などの課題の改善に努め、充実した図書館経営を目指したい。

5 おわりに

「読書は心の栄養」をモットーに、知的好奇心を刺激する「学べる図書館」、本を通して他者とつながる「楽しい図書館」、忙しい学校生活の中でほっとできるオアシスのような「癒しの図書館」を目指して、これからも生徒と一緒によりよい読書活動に取り組んでいきたい。